



様々なモノを許容する集合住宅

back ground

敷地は、愛知県瀬戸市のまちなかにある通称「瀬戸グランドキャニオン」。
この土地は、せともの等の器の土を採掘するために生まれたもので、
将来の土地活用に大きな期待がかけられている場所である。この起伏の激しい土地に
おおきな集合住宅を計画する。集合住宅といってもこれだけの広い土地に人だけが
住むのはもったいない。人以外の動物や植物の集合住宅にもなりうる住宅を計画する。

concept

建築がいきいきと呼吸するための条件を以下に示す。

■広いということ

広いことは、様々なものを受け入れる場所が用意されているということだ。
呼吸するためには大らかさが重要である。

■木の枝のような空間構成

木の枝は、大きな幹から細い枝へと枝分かれしていく。この生成プロセスを建築に
置き換え、大きな空間から小さな空間へと枝分かれしていく空間構成とする。
大きな空間から小さな空間まで、様々な大きさの空間を生み出すことで、
様々な居住空間に対応でき、様々なアクティビティも許容していく。

■まちなかに存在するということ

まちなかにその建築があるということは、周辺の環境に応じて、様々な「出来事」
を許容していく。「出来事」が反映された建築はいきいきとしたものとなる。

